

号外は総合南東北病院のホームページ (<https://www.minamitohoku.or.jp/>) でもご覧になれます。

総合南東北病院新築移転計画・職場環境を最優先 令和9年度開院に向け、本格始動



調印式に臨んだ渡邊理事長と森嶋社長(手前左端)ら関係者

(株)伊藤喜三郎建築研究所と 設計・管理等業務委託で契約

新築移転計画を進めている一般財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北病院と(株)伊藤喜三郎建築研究所との設計・管理等業務委託契約締結に関する調印式は6月14日(水)午後、北棟7階会議室で行われ、令和9年度の開院を目指し、南東北グループの歴史上で最大級の大型プロジェクトが本格的に動き出しました。

調印式には病院から渡邊一夫理事長、寺西寧院長、深谷保男院長代行ら、建築研究所から森嶋浩社長、赤岩重信取締役執行役員・経営管理本部長ら、両者で合わせて17人が出席しました。渡邊理事長と森嶋社長が業務委託契約書の内容を確認し、署名しました。両氏が固い握手を交わし、契約が成立しました。渡邊理事長が「新興感染症の対策や救急医療に対応した郡山市のランドマークになれるような病院になることを期待しています」と挨拶しました。

新病院建設・移転新築事業の基本方針は①新興感染症への対応②高度・広域救急医療の強化③災害医療への取り組み④福利厚生の実・働きやすさの実現⑤の4つから成り立っています。

具体的には①は一般医療施設との分断が可能な構造や一般医療と両立を図るため、受入れ患者に応じた病床区分を可能とする構造、感染症者の救急搬送及び重症患者の感染症対応を可能とする構造・設備など、②は県南地域を含めた広域から2次・3次救急患者の受入れを可能にする設備構築や

人員体制(救急医)の整備、ヘリポートの設置など、③は地域災害拠点病院や原子力災害医療機関としての役割を發揮すること、DMAの体制整備・充実、災害時避難場所としての機能提供(駐車場の開放、セントラルキッチンからの配給)など、④は休憩室やリラクゼーションできる環境の整備、職員食堂の設置、効率の良い動線確保、医療安全・感染管理等に対応するなどを計画しています。

今回の設計案の大きなテーマは『南東北ブランドの進化を目指す』で、質の高い医療人材の育成をはじめ、最先端高度医療の提供、高いクオリティを維持し患者に選ばれる最高の医療施設を作り上げることなどを最終目的としています。

建設規模は本院が延床面積約5万1千㎡、陽子線センターが約4千㎡、その他施設を合わせて合計約6万4千㎡となっています。

(株)伊藤喜三郎建築研究所とは…

昭和27年(1952年)10月1日設立、本社は東京都豊島区で、仙台・大阪・九州支店がある。社員数は130名(技術者120名)。『建築・環境をとりまくあらゆるテーマに対して、設計を通して価値の高いサービスを提供し、顧客と社会の発展に貢献する』の企業理念のもと、注目度の低かった病院設計の分野を開拓し、今では“病院の伊藤”の異名を持つ。「病院建築賞」など建築関連での受賞多数。主な建築物は栃木県医師会塩原温泉病院や千葉西総合病院、横浜医療福祉センター江南など。総合南東北病院の新築移転計画では複数の設計事務所から企画が提案され、優れた機能性や実用性などで高い評価を受けた同社と設計・管理業務委託契約を交わすこととなった。